



かつ もく

# 刮目

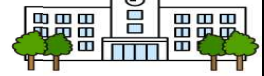
## 学校教育目標

## 校訓

## 刮目 ～刮目の生徒・刮目の教師～

～かけがえのない自己の人生に目を開き、たくましく自己実現していく生徒の育成～

## 自主・剛健・高雅



東金市立東金中学校 学校だより第28号

令和5年9月26日発行 文責：副校長 久我 和廣



今年、関東大震災からちょうど100年の節目ということで、マスコミ等でも特集が組まれていました。

関東大震災は、1923年（大正12年）9月1日午前11時58分32秒、神奈川県相模湾北西部沖80km（北緯35.1度、東経139.5度）を震源として発生したM7.9の海溝型大地震による災害のことです。

東京都、神奈川県、千葉県、静岡県、南関東地方の広い範囲に甚大な被害をもたらしました。震度は5弱～7となっており、震源地からの距離ばかりでなく、地形や地質といった地盤の条件によって違いました。ちなみに千葉県の館山から千倉にかけては震度7に達しており、津波の被害も出ました。津波の高さは3mから最大12mに達しており、千葉県でも高さ10m以上の津波が記録されました。また、関東大震災の大きな特徴は、火災による被害が大きかったことがあげられ、強風を伴った火災による死傷者が多数を占めており、2次災害によって多くの尊い命が犠牲となりました。



2011年（平成23年）3月11日、東日本大震災が発生し約19,000人を超える死者・行方不明者が出ました。津波が防波堤や防風林を超え、大勢の人々が津波で家を流されました。

しかし、この大地震・大津波の中、奇跡のような出来事が起こりました。岩手県釜石市内の小中学生約3,000人のほとんど（99.8%）が津波から逃げ延びて無事だったのです。釜石市の小中学生は何年にも渡り、津波からの避難訓練や防災学習を積み上げてきました。その指導をしていたのは群馬大学大学院の片田敏孝先生でした。

片田先生は、児童・生徒に次の3つのことを教えました。

### 「想定にとられるな！！」

想定とは、仮にこうなるだろうと決めることです。津波でたとえれば、次に起こる地震では高さが8mになるだろうと人間が決めることです。片田先生は、そういうことを信じるなと教えました。



地震や津波ではここが危険だと赤色や黄色で塗った地図（ハザードマップ）も信用するな、信じるなと教えました。今回の大津波では実際にハザードマップでは津波が来ないことになっている場所まで津波が押し寄せ、逃げなかった多くの人々が犠牲になりました。だから、自分の命を守るためには、仮にハザードマップでは津波が来ないことになっている場所においても、できるだけ高台に避難することが大切なのです。

### 「最善を尽くせ！！」

1次避難場所・2次避難場所まで来ても安心してはいけません。津波が来るまで時間があり、そこよりもっと高台があるなら、「その高台を目指して逃げる」ことが大事ということです。釜石市の鶴住居（うのすまい）小学校では校舎の3階が避難場所になっていましたが、隣の釜石東中学校の生徒が「津波が来るぞ！逃げるぞ！」と大声で叫びながら走って逃げるのを見て、小学生も全員その後が続いたのです。津波は、小学校の校舎の3階はおろか、屋上を越えてきたのだそうです。もし小学生が校舎に残っていたなら、全員が津波の犠牲になっていたことでしょう。

### 「率先避難者になれ！！」

「率先」とは「先頭に立って」という意味です。最初に逃げるのは臆病に思われるから格好悪いなどと思ってはいけません。釜石東中学校の生徒のように、一人一人が真っ先に逃げることで他のみんなも危険だと考えて逃げることになるのです。そして、みんなの命を救うことになるのです。



東日本大震災が発生してから、12年。私たちも、片田先生の3つの教えをしっかりと頭の中に入れておくことが必要です。

東北地方には「津波てんでんこ」という言い習わしがあります。地震が起きたら、津波が来るので肉親にもかまわず、各自てんでんばらばらに逃げろ」という意味です。皆さんのご家庭でも日頃から「自分の命は自分で守る」という意志の確認をしていくことも大切だと思いますので、よろしくお祈りします。